



海老沼小だより

～かしこく やさしく たくましく～

6月号

平成28年5月31日

さいたま市立海老沼小学校

～いじめ撲滅強化月間「命の大切さを学ぶ」～

校長 原田 守康

梅雨の季節になり、紫陽花の花が咲く頃となりました。

ここ最近、自然災害による恐ろしさ、怖さを痛切に感じております。

熊本県益城町を中心とした九州大震災は、震度5を越える地震が次々と起き、多くの被害が出ております。被災者の方々に心からお見舞い申し上げます。

報道では、現地に多くのボランティアの方々が訪れ、炊き出しの手伝いやがれきの撤去、避難場所の清掃、支援物資の仕分け等、心温まる活動をされていると聞きます。一日も早い復興をお祈りします。

新年度が始まって、早2か月が経過しました。私は清掃時間に子どもたちの掃除の様子を見て回るようにしています。先月（5月）の生活目標は「そうじはだまっておこないます」でしたが、多くの子は一生懸命協力し合って清掃に取り組んでいる様子が見られました。1年生の清掃には、高学年が分担して入り、教室の机運びや廊下の床拭きなど、時間内で終わるよう、しっかり手伝っていました。清掃活動を通して、環境美化はもちろんですが、高学年は低学年のことを考え、手伝ってあげたり、助け合ったりして、1年生を気遣う心が育ってきているのではないかと思います。

先日、清掃の時間に低学年の女子児童が、2階付近の階段で小さな蟻を見つけ、私に「逃がしたいのですが」と言いました。私は1階の出入口まで児童を案内して、蟻を地面に逃がしました。この女子児童には、命を大切にするという心が育ってきているのだと思われま。

子どもたちには、学校・家庭・地域等が連携し、様々な体験や経験を通して、知識ばかりでなく、命の大切さや他人を思いやる心、社会的規範意識等を育てていきたいと思ひます。

6月はさいたま市の全ての市立学校で「いじめ撲滅強化月間」に取り組みます。

この時期は、特に子どもたちが内面にストレスを抱え込みやすく、学校生活に適応できないという問題が発生しやすい時期であり、いじめの認知件数が増加するため、6月に設定されています。

本校では、日頃からいじめを許さない集団づくり、いじめが起きない学校づくりに努めています。

特に6月は子どもたちにいじめの問題について考えさせ、いじめが起きない集団や学校を作ろうとする意識を高め、児童の豊かな人間性や社会性をはぐくむ取組の充実を図るなど、いじめの未然防止に向けた取組を推進します。

5年生の「いのちの支え合い」を学ぶ授業や児童会・計画委員会による全校での「心を通わせるあいさつ運動」の展開、道徳授業の中で「人間尊重の精神」「生命に対する畏敬の念」に視点をおいた豊かな心の醸成、人間関係プログラムによるソーシャルスキルの向上を図るとともに他者を認め自尊感情や自己肯定感を高めること、諸活動の中で子ども達に責任感を持って行動させ、自分も他人も尊重するような心を育てる等、児童の発達段階を踏まえ、様々な取組を行います。

ご家庭でお子様について心配なことや悩みごと、お困りごとがございましたら、スクールカウンセラー、さわやか相談員、ソーシャルワーカー、本校職員に遠慮なくご相談ください。